

安全データシート

改訂日:2024年8月19日

1. 製品及び会社情報

製品名
推奨用途
会社名
住所
電話番号

アセチルアセトン
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
AA0220

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
物理化学的危険性
健康に対する有害性

引火性液体:区分3
急性毒性(経口):区分4
急性毒性(経皮):区分3
急性毒性(吸入:蒸気):区分3
皮膚腐食性/刺激性:区分3(UN)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分2B
生殖細胞変異原性:区分2
特定標的臓器毒性:区分1(中枢神経系)
(単回暴露) 区分3(気道刺激性)
水生環境有害性 短期(急性):区分3

環境に関する有害性
ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性液体及び蒸気
飲み込むと有害
皮膚に接触すると有毒
吸入すると有毒
軽度の皮膚刺激
眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
臓器の障害(中枢神経系)
呼吸器への刺激のおそれ
水生生物に有害

注意書き

【安全対策】
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること/アースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
取扱後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

アセチルアセトン, 米山薬品工業㈱, AA0220, 2024年8月19日,

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
【応急措置】
火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
【保管】
施錠して保管すること。
容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名
別名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
成分及び含有量
官報公示整理番号(化審法、安衛法)
その他

化学物質
アセチルアセトン
2,4-ペンタンジオン、ペンタン-2,4-ジオン
CH3COCH2COCH3
CAS RN: 123-54-6
アセチルアセトン 100%（純度98%以上のもの）
(2)-562
HSコード: 2914.19

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は医師に連絡すること。
直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。
多量の水と石鹼で洗うこと。

眼に入った場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯をすること。
水で数分間注意深く洗うこと。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

吸入： 協調運動失調、めまい、し眠、頭痛、息苦しさ、吐き気、嘔吐
皮膚： 吸収される可能性あり。発赤
眼： 発赤、痛み
経口摂取： 下痢、脱力感

		短期暴露の影響: 眼、皮膚、気道を刺激する。神経系に影響を与え、組織病変を生じることがある。
		長期または反復暴露の影響: 反復または長期の接触により、皮膚感作を引き起こすことがある。胸腺、肺、中枢神経系、鼻腔に影響を与えることがある。
応急処置をする者の保護		救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。
5. 火災時の措置		
適切な消火剤		泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂
使ってはならない消火剤		噴霧水、棒状放水
特有の危険有害性		消火後再び発火するおそれがある。
		火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
		極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。
特有の消火方法		容器が熱に晒されているときは、移さない。
		安全に対処できるならば着火源を除去すること。
		危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護		適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
		安全に対処できるならば着火源を除去すること。
6. 漏出時の措置		
人体に対する注意事項、保護具および緊急措置		直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
		密閉された場所に立入る前に換気する。
		関係者以外の立入りを禁止する。
		全ての着火源を取り除く。
環境に対する注意事項		環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材		不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
		危険でなければ漏れを止める。
		排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
		すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い		
技術的対策(局所排気、全体換気等)		『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
		『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項		漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。皮膚に触れたり、吸入しないように注意する。
		容器を密閉しておくこと。
		容器を接地すること、アースをとること。
		防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
		火花を発生させない工具を使用すること。
		静電気放電に対する予防措置を講ずること。
		適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
		10項に示す混触危険物質との接触を回避する。
		取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避		
衛生対策		
保管		
安全な保管条件		消防法の規定に従う。
		容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
		施錠して保管すること。
安全な容器包装材料		ガラス
8. 暴露防止及び保護措置		

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産衛学会	未設定
ACGIH	TLV-TWA 25ppm
濃度基準値	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には,適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。 暴露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	液体
色	無色澄明
臭い	特異臭
融点/凝固点	-23℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	140.5℃
可燃性	燃焼性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	2.4～11.6vol% (空気中)
引火点	34℃(密閉式)
自然発火温度	340℃
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
溶解度	職場の安全サイト エタノール、エーテル、アセトン、クロロホルム: 混和する。 グリセリン: 不溶
蒸気圧	0.93kPa (20℃)
密度及び/又は相対密度	0.970～0.97 (20℃/20℃) (規格値)
相対ガス密度	3.45 (空気=1)
n-オクタノール/水分配係数	log Pow=0.40 (測定値)
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
粒子特性	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	燃焼性を有する。 わずかに揮発する。 光分解性を有する可能性がある。
危険有害反応可能性	引火点近傍での加熱時に、蒸気と空気の爆発性混合物を生じる。また、これは周辺温度の上昇により生じることもある。 酸化剤、酸、塩基、アルカリ金属、水素化物、窒化物と激しく反応する。 過酸化物は空気との接触で爆発する。 光の影響下で重合することがある。
避けるべき条件	加熱、光
混触危険物質	酸化剤、酸、塩基、アルカリ金属、水素化物、窒化物
危険有害な分解生成物	該当情報なし。
11. 有害性情報	
急性毒性	経口 : ラットのLD50値として、0.78 mL/kg (764 mg/kg) (雄)、0.59 mL/kg (578 mg/kg) (雌) (PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2011)、SIDS (2003))、1,000 mg/kg (PATTY (6th, 2012)) との報告に基づき、区分4とした。

経皮 : ウサギのLD50値として、1,375 mg/kg (雄)、790 mg/kg (雌) との2件の報告 (ACGIH (7th, 2011)、SIDS (2003)) がある。区分3と区分4とにそれぞれ1件づつが該当するので、LD50値の最小値が該当する区分3とした。

吸入 : ラットのLC50値 (4時間) として、1,224 ppmとの報告 (PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2011)、SIDS (2003)) に基づき、区分3とした。なお、LC50値が飽和蒸気圧濃度 (9,181 ppm) の90%より低いため、ミストを含まないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。

皮膚腐食性／皮膚刺激性

ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、未希釈の本物質0.5 mLを4時間を閉塞適用した結果、軽度の紅斑又は軽度から中等度の浮腫がみられたが、7日後には軽度の落屑がみられたのみで回復性を示したとの記載がある (SIDS (2003)、ACGIH (7th, 2011)、PATTY (6th, 2012))。以上の結果から国連区分3とした (JIS区分外)。

眼に対する重篤な損傷性／刺激性

ウサギを用いたドレイズ試験において、未希釈の本物質0.1 mLを適用した結果、投与1時間後に軽度の結膜発赤、軽度から中等度の結膜浮腫及び分泌物、軽度の虹彩炎が認められたが、24時間後には全て回復した (SIDS (2003))。以上、軽度から中等度の刺激性がみられたことから区分2Bとした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器 : 該当情報なし。(分類できない)

皮膚 : データ不足のため分類できない。なお、ヒト12人に対するパッチテストで2人に陽性反応、7人に疑わしい結果 (doubtful) がみられたとの報告があるが、著者らはこの試験による反応は刺激によるものであると記述し (SIDS (2003))、さらに、モルモットを用いた皮膚感作性試験において1匹にのみ弱い反応がみられ、曖昧な結果と評価されている (SIDS (2003)、PATTY (6th, 2012))。

生殖細胞変異原性

In vivoでは、ラットの吸入暴露による優性致死試験で軽微な影響がみられたが、対照群と被験物質投与群の間で値のばらつきが大きく、統計学的有意差が得られたと評価されておらず、陽性の判断はされていない (SIDS (2003))。マウス精原細胞の染色体異常試験で、陰性 (SIDS (2003))、マウス、ラットの吸入暴露あるいは腹腔内投与による骨髓細胞を用いた小核試験では、マウスの腹腔内投与による試験のみで陽性、他は全て陰性 (SIDS (2003)、ACGIH (7th, 2011)、PATTY (6th, 2012))、マウスの強制経口投与による末梢血を用いた小核試験では、陽性結果が報告されている (NTP DB (2015))。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験では概ね陰性であるが、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験では陽性である (SIDS (2003)、PATTY (6th, 2012)、ACGIH (7th, 2011)、NTP DB (2015))。以上より、in vivoではマウスの小核試験では経口投与、腹腔内投与で陽性結果が存在すること、in vitroで染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性であることから、本物質は染色体異常を誘発すると考えられ、区分2とした。

発がん性

ヒトの発がん性に関する情報はない。実験動物ではラット、又はマウスに本物質を2年間吸入暴露した発がん性試験において、両種・両性ともに400 ppm までの用量で腫瘍発生率の有意な増加はみられていない (厚労省委託がん原性試験結果 (2015))。しかし、非腫瘍性病変としては、ラット、マウスともに鼻腔に炎症性変化、呼吸上皮の化生、嗅上皮の萎縮などがみられ、かつ最高投与群では体重増加抑制がラットの雌雄、及びマウスの雄に認められている (厚労省委託がん原性試験結果 (2015)) ことから、用量設定は適切であったと判断される。すなわち、吸入経路では区分外相当と考えられるが、他経路での発がん性に関しては情報がない。国際機関による分類結果もなく、よって本項はデータ不足のため、分類できないとした。

生殖毒性

妊娠雌ラットの器官形成期(妊娠6～15日)に本物質蒸気を吸入暴露した催奇形性試験において、高用量(400 ppm)群では、母動物に体重増加抑制、胎児に体重の低値(雌雄)、及び骨化遅延がみられ、中用量(200 ppm)群では雄のみ胎児体重の低値がみられたが、胎児死亡、奇形誘発など重大な発生毒性は母動物毒性が明白な400 ppmまでの用量では認められていない(SIDS(2003)、ACGIH(7th, 2011))。以上の胎児にみられた変化は分類ガイダンスに基づき、軽微な変化として分類根拠には含めない。一方、吸入経路での優性致死試験では、本物質を暴露した雄ラットと未処理の雌ラットを交配させた結果、雌の受胎率の軽度低下がみられたとの報告がある(ACGIH(7th, 2011))が、SIDSでは変異原性試験の項で、“着床後胚損失の有意な増加”は統計解析の信頼性を欠いており、優性致死陽性の根拠はないとされている(SIDS(2003))。この他、生殖能への影響評価試験として分類に利用可能なデータはなく、データ不足のため分類できないとした。

特定標的臓器毒性(単回暴露)

ヒトの吸入暴露で、わずかな局所刺激性のほか、眩暈、頭痛、吐き気、嘔吐、意識喪失などが知られている(SIDS(2003)、PATTY(6th, 2012))。実験動物では、ラットの経口投与で、485～760 mg/kg(区分2相当の用量範囲)で低迷、不安定歩行、衰弱、振戦、痙攣などがみられ、生存例では1～2日以内に回復した(ACGIH(7th, 2011)、SIDS(2003))。ラットの2.62～3.83 mg/L(区分1相当の用量範囲)の吸入暴露で、自発運動低下、正向反射低下、振戦などがみられた(SIDS(2003))。また、ラットの5.01 mg/L(区分1相当の用量範囲)の吸入暴露で中枢神経系抑制により死亡したとの報告がある(ACGIH(7th, 2011))。ウサギの790～1,370 mg/kgの経皮暴露で、麻酔、昏睡などの報告がある(SIDS(2003))。また、PATTY(6th, 2012)においても麻酔作用の所見が記載されている。以上より、実験動物での振戦や痙攣から中枢神経系影響、その他の影響として気道刺激性があり、区分1(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

ヒトに関する情報はない。実験動物では、投与回数が少ないが、ラットを用いた2週間強制経口投与毒性試験において、500 mg/kg/dayの用量を4回投与した結果(4回投与までに、3例死亡、2例は状態悪化のため4回の投与で安楽死)、呼吸困難、抑うつ、振戦、運動失調、膀胱弛緩、肺のうっ血、角膜混濁、胸腺壊死、肝細胞腫脹・うっ血、腎症、腸間膜リンパ節のリンパ節炎、心臓の炎症がみられている(SIDS(2003)、PATTY(6th, 2012))。ウサギを用いた2週間経皮投与試験において、975 mg/kg/dayを4回適用した結果(4回適用までに死亡がみられたため4回の適用で中止し、その後適用せず12日に安楽死)、皮膚刺激性(棘細胞増生、皮下浮腫、皮膚炎、出血、うっ血、壊死)、死亡(雄1/6、雌3/6)、活動性低下、虚脱、流涎、振戦、喘ぎ呼吸、痙攣、チアノーゼ、脳の出血・変性、胸腺・脾臓・リンパ節のうっ血及び出血、リンパ球減少あるいは壊死がみられている(SIDS(2003)、PATTY(6th, 2012)、ACGIH(7th, 2011))。さらに、吸入経路においても区分2を超える範囲であるが、ラットを用いた14週間吸入暴露試験においても同様の所見がみられ、運動失調、死亡例で小脳核、前庭核、線条体の急性変性、胸腺リンパ球の急性変性、生存例で脳のグリオーシス、脳軟化がみられている(SIDS(2003)、PATTY(6th, 2012)、ACGIH(7th, 2011))。以上のように、中枢神経系が標的臓器と考えられるが、経口投与及び経皮投与試験では投与回数が4日間と少ないことから、ガイダンスに従い分類には採用しなかった。また、吸入経路では区分2の範囲に影響はみられなかった。したがって、分類できないとした。

誤えん有害性

データ不足のため分類できない。なお、HSDB(2015)に収載された数値データより、動粘性率計算値は0.62 mm²/sec(20℃)(粘性率: 0.6 mPa・s; 密度(比重): 0.9721)と算出される。

アセチルアセトン, 米山薬品工業㈱, AA0220, 2024年8月19日,

生態毒性	短期: (急性)	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=34.4 mg/L(SIDS, 2001)から区分3とした。
	長期: (慢性)	急性毒性区分3であるが、急速分解性があり(良分解性、BODによる分解度:83%(既存点検, 1991))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=0.4(SRC, 2005))ことから、区分外とした。
残留性・分解性		該当情報なし。
生体蓄積性		該当情報なし。
土壤中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。(GHS分類:分類できない)

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又は産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号	2310
品名(国連輸送名)	ペンタン-2,4-ジオン
国連分類	クラス3(副次6.1)
容器等級	III
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	131

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)	第一種指定化学物質〔アセチルアセトン〕(2023年(令和5年)4月1日以降)
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
消防法	危険物第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(第2条第7項危険物別表第1)
労働安全衛生法	危険物・引火性のもの(施行令別表1) 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[アセチルアセトン] 皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質
船舶安全法	引火性液体類(危規則第2条危険物告示別表)
港則法	引火性液体類(施行規則第12条危険物の種類を定める告示別表)
航空法	引火性液体(施行規則第194条)

16. その他の情報

参考文献	職場のあんぜんサイト(厚労省HP) 17423の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 主要化学物質の法規制一覧表(化学工業日報社) NITE-CHIRIP(製品評価技術基盤機構HP)
	記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。